



五卷内

好井庵書

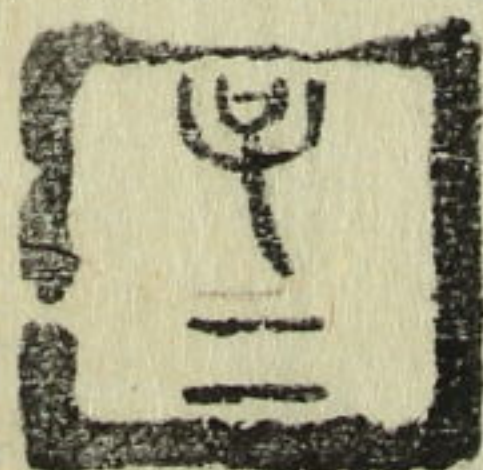
森朝月送





五老井許六選

五老井許六選



風俗文選序

月澤 律師李由述

飛蝶乃羽友子。五老井の許六。滑稽
俳諧新古今文系を拾ひ集めく風
俗文選と題もむ。やまと新文系集め
て。この序を

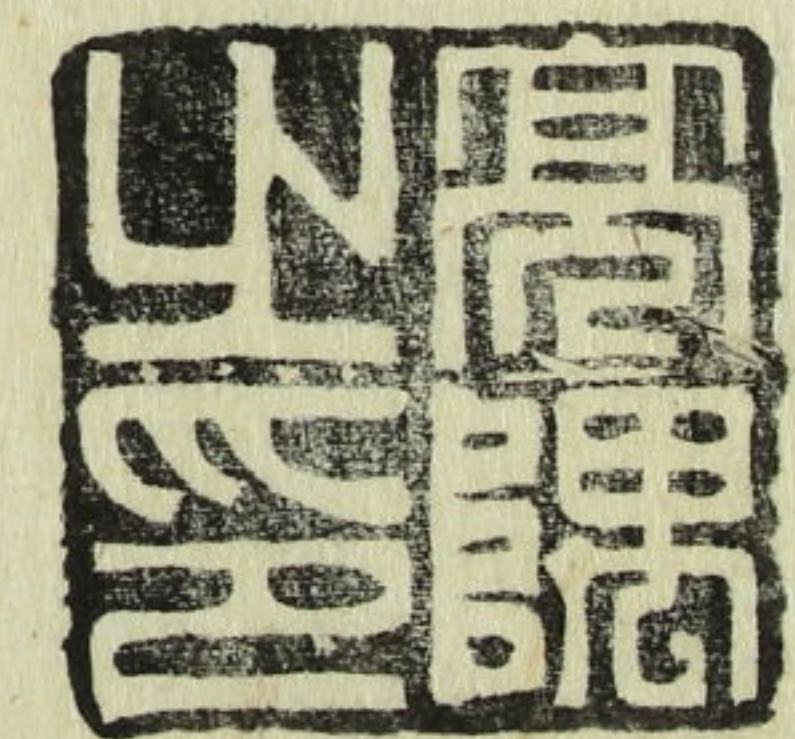
本館文粹といへり。我おふ。け文粹を。
本館の人お述作。て。文乃序。か。い。く

漢文なる一。今評ある文選。和歌の
又素より其師をのび。漢文は
へむ。一。や。と。何。お。か。と。そ。ん。だ。と。
双紙お徳のをくいのこ。一。

本朝の文章と稱する。お徳。今。此。風
俗。又。選。の。ひ。な。く。一。又。漢。文。は。又。選。
教。を。定。め。顔。を。一。て。を。格。よ。り。ま。さ。る。か。
へ。一。され。と。一。又。素。より。又。選。と。古。文。

とい記する。此。を。お。徳。あ。れ。漢。文。と。
も。怪。な。く。と。と。く。と。わ。か。し。て。和。文。は。又。字。
の。教。さ。る。や。あ。顔。字。と。も。な。一。と。う。を。
と。未。だ。荒。賊。と。お。徳。お。通。の。ひ。な。く。顔。
と。是。和。文。は。顔。を。ま。さ。る。一。格。な。り。あ。か。ら。
顔。を。用。る。も。よ。し。す。其。の。お。徳。と。い。自。
由。な。く。一。何。ほ。お。徳。と。い。ひ。の。う。ら。な。を。お。徳。
と。い。ふ。く。お。徳。と。い。ふ。を。お。徳。と。い。ふ。と。

江東僧律師より由き賞年
於西梅庵序



風俗文選序

落柿舎 去來

世小俳諧の文ありてを集といふと然いふこと。先
師といふいふこと。心よかりし物希なり。然
むるもやゝあるもすと世余あるなり。今や心
おもひれ。凡雅小振ふるより。小。管城。筆を横へ
又揚子。臂をさるふと。今いふと。今いふと。今
とく。雅。紫門。辭あり。終は。頌讚の風流を重と。
或は。書あり。或は。福ありて。説。賤のよと。或は。述。又。謀。或

を強し。自甚能乃才ありて。許多の紙をりて。其
と。此紙を子威のほりて。ふん。又書あり。中
と。彼書をのり。乃。句讀を教ふる類なり。や
け文を志する者。げ道を志する者あり。作者のけ
み。と。中。と。稱する。と。紙。湖東。森。は。み。の。く。
虚実。上の。つ。る。へ。の。ふ。一。志。く。今。紙。名。望。を。風
一。て。け文選を志する。然も。室。小。元。好。日。序



風俗文選序

東華坊 文考

海。く。小文選ある所。吾。知。よ。文選。な。く。人。や。と。
あ。く。え。く。ひ。く。の。く。よ。と。紙。書。湖。東。の。氏。子。許。羽。友
か。ま。凡。文。素。ら。固。孔。乃。ん。を。傳。く。在。墨。の。多。く。教
業。せ。く。紙。く。和。漢。よ。ん。を。傳。く。ふ。ま。と。と。ん。婆。を。傳。く。
と。め。く。又。ま。ん。也。人。々。を。す。く。く。は。き。く。く。それ。ん。
つ。ふ。く。く。紙。お。ほ。く。ぬ。る。又。ま。よ。何。乃。ん。あ。く。人。
ん。と。て。紙。乃。ん。か。る。い。す。ぐ。ハ。世。小。家。化。く。く。く。く。く。
化。を。志。する。人。を。い。く。漢。を。志。する。人。と。い。く。よ。め。く。漢。
人。乃。ト。志。を。す。れ。く。も。乃。よ。つ。く。少。屋。よ。ん。な。れ。く。

すぐうゝ変化をすれば人と云ふ所へは、
 源氏物語の如く、
 人の心くあらふをこそいふべきなり
 づ。後、衣を、
 ち。おちろはのまゝなりし、
 君のまゝ、
 あらむをば、
 ほとけを、
 お供なり。あゝ、
 さうりや。日記は、
 見て、え、
 う。

う。記と記と、
 う。もあるや、
 飛と、
 祇園精舎の鐘なり。
 虫、
 おも、
 う記、
 とも、
 人の作、
 寺、
 とい、

世もいふおとともてもいふ人の。碑もいふいとおと
 さふいふ。世情乃境目よあふふ合点とていふ
 何る能く家神の終宴祀もあふいふ。世情乃
 帯白糸もおの神くぐんよあふいふ。いふの
 もぐはあふいふあといふ事なり。天と神とを
 月よあふいふ。地と神とをく花よあふいふ。竜吟
 とやばあふいふ。虎嘯もいふ。亦もいふ。梅もいふ。
 お糸もいふ。麻もいふ。あふいふ。神傳いふ。てあふい
 む。先師。つひいふ。漢よハ之乎者也の四字を
 して。世情乃早お祀をいふ。和よハあふいふ。波の
 音とていふ。果ハ一涼ハ一時をいふ。のふあふい

ず。てあふいふ。波乃る。あふいふ。神ハ一句
 長短をいふ。二句お句續をいふ。いふ。いふ。いふ
 息乃つぎとていふ。いふ。海を海龍腸とていふ。
 つぎあふいふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 世ハいふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 あふいふ。文選乃時をいふ。あふいふ。あふいふ。あふいふ。
 いふ。

寶永元年甲申臘月日



風俗文選

自序

五老井許六選

文々貫道ノ器也孔子も案力ありハ
ふれをまづとて吾新徳首のびー
より大和詞代文筆、庫より車子
みてびりまこと世ふわこおろくふ来
おほさる女家の筆よりて源氏按

長乃半しうひ男女共中試はう。實ハ
奇よまほへき道にまたねへ。其可
歌連哥の文法めて誹諧文章早ん
格式一言もたう。先師芭蕉翁始て
一格試とてゝ氣韻生動とあるを
たとひ鄙言漢字をまどへるも
心々吾野そこの田の花み葉をうらや

み。和歌の浦心志試をて難波津の細き
よあをたも志るべ。縦横自在を
画一するともいふの趣を平列する所
なくして。童蒙の丸いおけう。よあく
果は松坂を仕舞するや。甚と下し事
多るべ。今あの中あふと文章。蘇々二十
文ハ一百十有余篇。皆く俳諧文章なり。

出流をのみ。こゝろをなして。いかに入るべし。と。才子
みそ井。神子。い。撰。集。て。家。家。永。二。百。歳。
自。所。て。風。俗。文。選。と。い。ふ。云。尔



本朝文選

○作者列傳

芭蕉翁者伊賀之人也。武名松尾甚七郎。奉
仕藤堂家。壯年時辭官。遊武列江戸風雅
為業。號桃青。乃誹諧正風。射中興開祖也。
嘗世為遺功。修武小石川之水道。四年成
速捨功。而入深川。芭蕉菴出家。年三十七。
天下稱芭蕉翁。遊東西南北。說風雅。即諸
門人。國中悉歸芭蕉風。一遇難波津伏病
終。卒年五十一。葬江列義仲寺。
浪化者。東門主。一如大僧正之連技也。號應

真院居千越中井波瑞泉寺。一日遊洛會
芭蕉翁效風雅。後著有礪海前後集。病薨。
年三十二。

僧文妙者。尾州犬山產也。壯年辭武出家。隱
松本山上。蕉門之騷客也。能詩。後三年閉
關而終。不出。病死。常讀法華經。年四十四。
僧千那者。江列堅田產也。居千本福寺。釋名
妙式上人。掌任律師。號蒲菊坊。中華蕉門
之高弟也。

僧李由字買年。近列之產也。居千光明遍照
寺。釋名亮隅上人。掌任律師。入蕉門而學
風雅。年久。故著韻塞篇。突宇陀法師。書病
死。年四十五。

支考字盤子。號東花西花。亦號獅子庵。濃列
之產也。入蕉門。業風雅。一方門人也。先師
滅。後遊東西南北。說風雅而助諸生。故往
往慕支考風者多矣。中遇居于勢列山田。
後歸。故國作誹書數篇。辨俳諧之論。

晉其角者。武列江戶產也。生醫家。不學醫術。
終業俳諧。寶井氏號狂而堂。蕉門之一人。
而後起。已一風。著誹書數篇。

嵐雪者。服部氏不知何許人。業風雅。遊武江。

戶蕉門之高弟也。後別妻出家。

野坡者。越之前列人。生商家。居于武江戶。蕉門之學者也。一遊西海。不定其所居。隨師得炭俵之撰号。

北枝者。加列金澤之人也。業磨工。見蕉翁好風雅。北方之逸士也。

涼菟者。勢列山田神職之人也。業風雅。初號團友。

露川者。伊賀之人也。生商家。居于尾名護屋也。好蕉門之風雅。

雲鈴者。奥列南部之人。產武。壯年入道。自號

摩詰菴婆且人。風雅師。東花坊。一渡依渡。

島著入日記。

吾仲者。洛陽人也。居于六條。業佛畫。好風雅。師李由。自號柳後園。著柿表紙三卷。

路通者。不知何許者。不詳其姓名。一見蕉翁。聽風雅。其性不實輕薄。而長違師命。飄泊之中。著俳諧之書。

凡兆者。加列之產也。業醫。居于洛。學蕉門之風雅。一罪事。不知其終處。

素堂者。山口氏也。居于武陽。避世務。隱于深川。友芭蕉翁善。

嵐蘭者不知何許人。松倉氏業武奉仕板倉家。而奉諫速辭官。携母隱于武淺州。蕉門之老弟也。為月遊于無倉病死。

荊口者濃別大垣之武士也。宮崎氏蕉門故老之士也。此節千川文鳥三士之父也。後致仕改名東宇。

去來者肥前之產也。後隨兄居于洛陽。向井氏也。中華蕉門之高弟也。號落柳舍。隨師選後。後病死年五十三。

万子者加列金澤之武士也。生駒氏號此君菴。蕉門之英士也。

厚為者加州太聖寺之武士也。河地氏蕉門之英士也。病死。

木導者江別龜城之武士也。直江氏自號阿山人。蕉門之英才也。師翁稱奇異逸物。

汝村者江別龜城之武士也。松井氏字師薑。號九華亭。蕉門之達士也。嘗能書畫。繪師五老井。

毛純者江陽彦城之武士也。北山氏號大雅堂。好風雅。愛畫圖。師五老井。程已者近列龜城之武士也。朝倉氏號白目堂。愛蕉門之風雅。

朱迪者江陽慶城之武士也寺島氏号其露
 臺年久好風雅而入蕉門病死年四十三
 撰者許六者江州龜城之武士也名百仲字
 羽官森川氏號五老井別号菊阿佛一見
 蕉翁得正風躰實血脉道統之門人也常
 友李由撰俳書數篇

以上二十八人

風俗文選目錄

五老井許六選

○卷之一

辭類

柴門辭

芭蕉翁

辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

丈艸

燒蚊辭

嵐蘭

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

○卷之二

賦類

南都賦

汝村

鎌倉賦

許六

吉野賦

丈柳

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐蘭

湖水賦

李由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去來

○卷之三

賦類

附譜

鼠賦

去來

旅賦

許六

揚揮豆賦

毛純

四寐廬賦

李由

閑居賦

汝村

招魂賦

支考

譜類

百鳥譜

支考

百花譜

許六

山水譜

許六

○卷之四

說類

簑虫說

素堂

柴賣說

九兆

閉關說

芭蕉

師說

許六

名阿段說

許六

出女說

木尊

雜說

不知作者

愛縣說

万子

卟字藤說

程已

草刈說

露川

山芋說

吾仲

朝霄惑說

毛統

解類

獲麟解

許六

長雪隱解

許六

藪醫者解

汶村

○卷之五

記類

落柿舍記

去來

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風水二臺記

許六

紀行類

鹿島紀行

芭蕉

南行紀

李由
許六

序類

曠野序

芭蕉

猿蓑序

其角

喜柳後園序

支考

要文集序

許六

近江八景序

千那

画樓繪舍序
許六

四絕文章序

李由

麻生後序

許六

銀河序

芭蕉 番椒序

野坡

○卷之六

箴類

飲食色欲箴

許六

聽箴

許六

銘類

机銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

許六

茶碗銘

嵐雪

雲華園銘

汶村

飯鉢銘

吾仲

左右銘

芭蕉

是非齋銘

許六

誄類

嵐蘭誄

芭蕉

丈艸誄

去來

去來誄

許六

○卷之七

歌類

挽歌

支考

鄙歌 五首

文類

俳諧發願文

浪化

聖靈祭文 李由

剃髮文

支考

祭猶文

支考

吊古戰場文

芭蕉

斷絃文

許六

○卷之八

傳類

公平傳

汶村

東順傳

芭蕉

牧童傳

支考

五郎四郎傳 支考

靈虫傳

去來

和氣傳 李由

直指傳

許六

碑類

壺碑

芭蕉

笠塚碑

李由

○卷之九

辯類

詩歌誹諧辯

丈艸

定先後辯

支考

豆腐辯

許六

天狗辯

木尊

手足辯

汶村

人參辯

許六

射御辯

許六

表類

雨乞表

許六

嘲佛骨表

其角

讀佛骨表

厚為

陳情表

支考

○卷之十

論類

旅論

許六

仁不仁論

北枝

蕎麥論

許六

頌類

誹諧頌

李由

蕎麥切頌

雲鈴

酒德頌

朱廸

石臼頌

芭蕉

讚贊類

西行上人像讚

芭蕉

神農讚

涼免

義少年畫讚

許六

團扇贊

荊口

入學贊

許六

紫芝世贊

許六

書類

院艷書

日蓮上人報書

解

柴門辭

芭蕉

瓢辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

文州

燒蚊辭

嵐菊

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

風俗文選卷之一

五老井 許六選

辭類

柴門辭

芭蕉翁

送歸許六之故鄉
饒別之文也

去年秋。しり神。よ面とある。ふ。み。み。月の。く。み。深。地。に
別を。お。し。び。も。と。う。秋。よ。み。く。び。と。も。廊。を。き。う。い
て。終。日。軍。供。を。け。ん。も。雲。繪。を。ぬ。え。内。秋。を。お。も。と。う
う。ろ。う。人。よ。と。う。あ。ま。の。終。を。何。が。あ。ぬ。じ。や。内。秋。の。あ
ぬ。じ。と。い。へ。内。秋。を。何。の。あ。も。し。も。や。画。の。あ。も。し。と。い
て。も。う。さ。う。さ。う。二。う。て。用。を。た。け。し。や。一。な。ま。の。ま。と
や。さ。う。さ。う。多。能。を。た。け。し。と。い。ふ。二。う。て。用。一。なる。ま。

威とくまゝや。画いさひてふかゆと。風物いさへて
 予のすまじなり。されどもゆが画ハ精神徹入る。等
 端ぬをゆふ。そと遠なるを。予がうつふ。あゝむ。
 ちが風物。其旅を。風乃ど。流さくいて用ふ。
 予。ちが。新。あつめいふ。の。ち。神。い。い。ち。さ。れ。
 一。あ。ぶ。な。る。あ。つ。れ。ど。も。あ。つ。れ。な。る。あ。お。は。し。は。
 実。あ。る。お。よ。の。か。を。ま。い。一。ま。れ。も。一。れ。う。ち。新。は。實
 ち。あ。つ。て。あ。つ。も。お。れ。一。い。を。さ。つ。と。お。ま。い。侍。ら。し。と。や。
 さ。れ。ど。い。は。い。な。を。か。や。一。そ。を。さ。れ。て。ま。い。を。
 あ。つ。ち。う。ち。あ。つ。ち。れ。た。人。の。れ。を。り。と。め。れ。
 人。乃。ち。あ。つ。ち。な。あ。を。り。と。め。れ。と。南。山。大。師。の

ちのちもあつち。風物も又。れ。は。回。一。と。い。ひ。
 灯。を。り。と。め。て。は。あ。の。れ。は。お。う。り。て。り。ゆ。め。と。

瓢辞

許六

白。馬。麻。が。く。け。い。り。と。画。ト。ま。る。風。物。あ。つ。ち。は。は。
 人。あ。つ。ち。ま。い。ち。元。乃。れ。も。ま。い。ち。の。ち。ち。あ。つ。ち。系。番。ち。
 ち。甲。列。乃。細。も。今。ち。あ。つ。ち。二。す。ち。あ。つ。ち。て。あ。つ。ち。さ。び。
 一。さ。う。画。ハ。風。物。を。れ。と。お。れ。乃。ち。あ。つ。ち。や。中。
 一。も。あ。つ。ち。あ。つ。ち。書。け。は。る。

一、
 月もたつて果てぬ。甘き春のうらぐれを
 月におぼえの使ふまに。人いかにと。おぼくは。かの雪
 まじおのとあつち。甲カゲトのうらよ。さうと西へ。ひび
 かまわは降来し。さぬくも。笑ひたる。おと
 こつて。酒サケ巻マキ。あけく。一翫イツクワン乃その。ひを。賢人の心コハ
 れみたるまじ。まじの中より。そ。賢人か。さうむ。
 許由が。句。として。おとろ。おとろ。いふ。ゆ
 も。か。か。名物も。さうむ。油アブラ。八田徳のお茶センジチヤを
 入す。このお細オホシ不フふ。ぼく。さうむ。さうむ。花いじつ
 う。さ。も。な。て。楊柳ヨウリウ。さうむ。さうむ。さうむ。深井の雪ニギキ
 の。春。なる。所。人の。鴈ガン。さうむ。さうむ。夕顔セウガンさうむ

杵々ぐぐの。も。傷。金。及。よ。さ。う。や。き。る。由。致。と。志。く。も。き。も。
 吟^{イモウ}也。と。言。ひ。き。み。糸。あ。り。し。能。酒。一。て。貪^{ビン}之。神。の。神。
 事。と。い。は。れ。る。べ。し。臣。士。が。曰。ふ。汝。が。法。乃。あ。汝。を。と。る。と。や。
 若。く。曰。ふ。捨。き。の。執^{ヒナグ}も。智^チなり。隣。人。が。一。令。と。そ。と。て。
 これ。全。く。瓢。の。罪。と。い。ふ。が。る。目。が。度。い。さ。で。よ。何。の。罪。
 う。あ。り。し。が。も。佛。縁。深。き。ゆ。空。也。と。人。が。推。つ。と。も。我。
 ち。う。き。も。お。祖。師。と。い。は。な。わ。き。る。が。乃。そ。汝。や。が。く。れ。汝。
 う。酒。光。す。し。い。も。佛。縁。乃。因。し。と。も。い。は。る。臣。士。た。き。こ。
 お。腹。さ。き。く。汝。が。い。ふ。皆。く。煙。土。の。論。なり。曾。く。此。衆。
 を。と。る。も。古。人。生。氣。一。瓢。の。系。と。の。得。み。金。と。い。は。後。
 と。り。と。い。つ。も。ち。や。い。が。ん。と。樂。と。い。は。れ。上。下。の。情。也。瓢。

此人かひく詩をくも。多情有夢の画と彩も春云
甘泉新弄をあやつるといども。折れ雅も之をさふ
ごとく。敷鴨の尾をさぐわ。つとせ先明。園新瑞霞の比
まろく。一棒をうきくちと。いども。いふふ涙はも
むを。今まよる子知く。て。ふ後を磨ぐむと。此
雅なり。いふなるおちわ。鏡乃おの影をうけ。いふ。か
汝え事。磨ぐとをさく。と。迷ふま。い。く。お根をわ
たす事。

分別と花のうきみも
あきらめく

贈新道心辞

文才

世をわきて。心をぬるほ。人の皆。つか。お心を發
して。ま。い。き。は。い。め。も。志。あ。い。新。と。年。を。さ。ね
お終。い。又。か。き。新。い。い。く。縁。お。何。く。子。無。く。な。わ
て。文。と。く。先。乃。人。も。お。ほ。い。ぬ。さ。る。い。の。い。む。お
回。れ。古。人。も。け。る。を。い。う。先。て。お。家。ら。お。あ。い。存。乃。
お。家。を。送。べ。さ。う。い。勸。め。を。さ。う。い。ぬ。曾。九。子。と。
み。の。お。時。乃。心。里。も。あ。と。い。て。い。ふ。さ。い。ひ。なる。終。
乃。い。か。る。縁。も。い。ほ。る。事。乃。夜。も。摩。く。く。ち。う。さ。お

すゝをわきま。ふきよかきま。ゆるし。借ひのり。で。
今乃あらざ。お印。ま。お存。のふ。家。を。お。こ。さ。う。ぬ。
こ。さ。は。乃。は。ゆ。を。祿。が。ひ。て。押。お。辞。を。お。お。わ。ぬ。
ね。を。わ。く。又。後。ま。あ。う。ま。乃。月。

焼蚊辞

嵐蘭

蚊。蚊。帳。中。の。蚊。汝。を。焼。し。辞。を。見。し。も。汝。は。辞。を。う。
け。し。も。う。死。し。と。も。う。ぐ。う。た。ま。う。と。せ。よ。交。還。難。
を。焚。中。ま。や。ー。な。し。終。し。は。終。が。う。は。と。彼。を。心。を。と。れ。
こ。終。を。念。を。り。し。死。し。く。人。乃。肌。を。せ。ま。う。か。き。を。せ。む。

ぞ。終。を。ふ。く。ま。む。也。

刺。し。く。ま。よ。か。う。れ。て。ま。の。ぬ。ま。や。う。汝。を。帳。よ。今。
帳。の。ぬ。ま。や。う。は。あ。い。終。を。う。し。う。づ。終。と。う。さ。へ。や。
陣。促。織。乃。大。入。を。ま。ゆ。し。き。け。ぐ。り。な。ー。や。面。は。深。
き。ま。そ。は。ち。く。は。も。終。し。一。は。を。に。も。う。う。げ。お。ま。乃。
終。の。終。な。む。る。も。ま。う。む。づ。何。の。あ。や。れ。と。ま。し。
ゆ。が。や。う。う。う。何。を。情。と。ま。む。義。終。の。送。り。は。暫。也。
さ。ー。ま。須。い。ふ。ま。ふ。が。夜。付。は。か。終。く。謀。を。お。し。と。い。
へ。も。天。下。の。ぬ。ま。う。し。も。名。を。の。づ。う。ま。さ。が。ふ。又。汝。と。い。む。や。
劇。舞。を。祝。文。を。さ。け。目。有。ま。さ。る。の。唐。賊。を。お。が。終。う。ふ。
共。と。天。う。し。汝。と。い。ふ。べ。お。ま。あ。う。む。大。盗。あ。に。極。た。な。

人あらず。一付乃月日。行違ひ。や。小廻。老の。其
ま。信。之。信。極路キカミチを行。よ。き。な。れ。て。み。す。と。事。お。も。今
も。一。杯。乃。若。者。切。も。も。ふ。く。今。又。あ。中。年。せ。む。る。と。
回。集。を。翻フ。と。も。も。や。も。一。は。り。一。の。の。交。相。を
ん。れ。よ。づ。も。う。あ。つ。神。な。う。ぐ。ら。な。一。廿。一。某。氏。は。い。は
乃。相。続。も。ま。ち。つ。時。も。と。か。つ。あ。つ。神。を。の。ぐ。後。金。の
つ。神。を。い。ふ。信。也。と。そ。な。は。ま。い。ら。う。と。い。ふ。は。い。は。れ
と。極。り。一。神。佛。と。も。及。び。一。一。の。ま。は。り。神。は
乃。川。お。わ。り。八。朝。累。重。の。そ。う。ま。り。と。物。皆。金。銀。乃
と。極。り。下。万。年。の。末。と。い。ふ。は。い。は。れ。を。す。人
と。い。ふ。は。い。は。れ。も。も。と。い。ふ。也。金。子。の。感。得。と。大。判。は

裸。で。は。一。白。銀。と。金。銀。と。一。早。下。一。と。い。ふ。と。あ。つ。神
孫。と。い。ふ。乃。も。は。い。は。れ。と。一。一。又。と。い。ふ。と。あ。つ。神
孫。一。提。さ。も。サ。み。中。お。あ。が。し。と。皆。お。願。い。と。い。ふ。と
え。と。ま。家。川。と。い。ふ。人。と。い。ふ。乃。故。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い
に。も。い。ふ。と。神。て。信。は。い。は。れ。と。い。ふ。也。え。と。い。ふ。乃。と
旋。り。と。い。ふ。乃。の。神。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
世。乃。中。を。廣。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
の。内。や。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
乃。一。と。神。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
湯。屋。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と
お。あ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と

町よりしるは。法家新藤岡より。名物なり。安く人
 風流に似く。金づくのく。まかへ。――。お月朝日
 野原乃。顔つんせ。給分る小判也。む。――。お原櫻町と打
 たり。中なる。ゆき屋町。天下新金をさうり。て。ま。ず
 つ。お。も。い。時。く。ま。お。つ。ん。と。お。く。ハ。ゆ。き。と。く。や。ひ。ま。の。朝
 日。と。く。お。ま。い。乃。事。物。の。目。也。お。ま。く。と。く。と。思。ふ。の。み。氣。也。
 是。乃。く。根。志。笑。の。ひ。む。――。お。ま。の。名。物。乃。真
 あ。く。神。の。も。羽。の。顔。新。も。な。――。嵐。ま。が。――。度。が。く
 ー。是。乃。の。里。新。み。と。も。り。何。を。ゆ。き。乃。年。く。れ。く。令
 一。版。は。責。ま。く。り。か。つ。也。小。判。大。名。信。は。く。と。思。て。お。版。を
 あ。く。と。版。乃。お。新。か。ち。新。改。改。く。く。ふ。く。新。乃。都。乃

新藤岡より。神々人乃。新藤岡より。威をす。ん。と
 へ。伊勢新藤岡乃。お。神。屋。時。茶。代。を。新。一。枚。衣。配。小。判。を
 下。――。お。ま。と。新。と。新。と。ま。く。く。大。九。日。と。く。ふ。なり。く。ま
 小。乃。大。海。日。一。日。新。遠。い。く。ひ。か。く。一。年。中。新。大。油。新。
 今。は。時。は。あ。く。新。を。り。こ。子。世。界。乃。今。新。く。く。一。旦。新
 新。世。と。く。入。く。新。く。――。お。ま。の。新。さ。く。新。新。と。く。く
 新。と。く。く。新。も。己。は。新。ま。く。り。作。中。と。く。新。と。神
 代。乃。新。乃。く。お。ま。の。新。乃。新。び。新。新。乃。天下。新。お。新。く
 新。新。と。お。ま。ひ。く。新。と。新。の。代。は。お。新。く。新。乃。道。は
 新。と。く。く。新。乃。今。也。目。は。く。く。新。神。を。な。く。一。然。お。く
 女。乃。中。を。や。り。く。新。乃。新。乃。の。新。心。を。な。く。く。く

多岐にわたりて神也と古きなり。一、まゐりのふりいふに神なる。れ
もさるるなり。今やハけと神なる。あつたれなる。人び
果てて。二、目乃還るなり。も。あつたれなる。金
なり。

好井花子

